

吉岡出雲の墓

銀山川より遥か高くにある、木々に覆われた丘の中腹には、17 世紀初期に日本中で金銀の採掘を促進するのに重要な役割を担った男の墓が 1 つだけぽつりとあります。和泉国（現在の大阪の近く）に生まれた吉岡隼人は、毛利家が 1562 年から管理していた石見銀山で採掘に携わる毛利家の役人としてそもそも働いていました。武将であり、現在は日本を 1603 年から 1867 年まで支配した徳川幕府の創設者として知られる徳川家康（1543–1616）が石見銀山の支配権を 1600 年に得ると、家康は最も信頼する同盟相手の 1 人であった大久保長安（1545–1613）を銀山の監視役として任命しました。優れた経営者であった大久保は、政治は政治家に任せると、経営技術と銀脈を発見する能力によって評価されていた吉岡を採用したのでした。

大久保は吉岡に任務を与え、幕府が管理していたいくつかの鉱山へと送りました。その鉱山には伊豆（現在の静岡県）の銀鉱山や、佐渡島（新潟県）の相川金銀山が含まれていました。吉岡は素晴らしい成果を上げ、名声、富、そして出雲という尊称を手に入れました。出雲という名前は石見銀山の東に位置する国から取ったものです。1614 年に死去すると、吉岡出雲はその地域で最も名誉ある寺社の 1 つであった極楽寺にて埋葬されました。極楽寺はずいぶん前に無くなってしまっていますが、1813 年に彼の子孫たちによって再び立てられた吉岡出雲の墓石は、かつて寺の墓地があった場所に残されています。